国立国語研究所学術情報リポジトリ

A Study of the Grammar of the Hatizyô-zima Dialect

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2019-02-15
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 飯豊, 毅一, IITOYO, Kiiti
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001713

八丈島方言の語法

飯　豊　毅　一

1　はじめに

八丈島は東京の南方海上約290キロにある。大賀郷，三根，樫立，中之郷，末吉の五つの部落がある。(以下それぞれ，O，M，K，N，Sと記す)。農業が主であり，漁業もやや盛んである。

八丈島は古来交通が不便であり，流人の島として名高い。独特な言語が行なわれており，また，その言語も五つの部落相互に違いがある。

われわれが昭和24年に行なった「八丈島の言語調査」(国立国語研究所報告1)は言語体系の調査を目的としたものではなかったので，文法などはその一部にしかふれていない。ここにその調査における資料，および昭和29年度における補正調査(野元所員と同行)，および島出身の在京者についての調査における資料により，O部落を中心として，その語法の概略を述べたい。多く質問調査によったが，自然会話の観察によるものもある。年齢は5, 60才ごろを中心としている。島固有の言語を重視した。

「八丈島の言語調査」に記述した事柄については，特に補正を要するもの以外にはふれない。

2　動詞の活用について

動詞の活用(O部落の)は「八丈島の言語調査」に載っているので，多くはそれに譲る。ただし，補正調査によって，次のように訂正したい。(表1)

注　方言の表記はカタカナによる。[je] [we] などはイェ，ウェ，[tsa] [tso] などはツァ，ツォ，[kja] [kjɯ] などはキャ，キュ。「八丈島の言語調査」における [toɐra] の [ɐ] などはトアラのように表記し，aと区別しない。[ka:] [ki:] などはカア，キイと記す。

1.　幾つの活用形をたてるべきかが問題になる。A，B二つの用法を，ある語

表1

活用語	接続する語 / 語幹	第1形 仮定・完了 ～バ	第1形 仮定・完了 ～ラ（～タラ）	第2形 ～テ ～テモ	第3形 中止 ～ンナカ ～タキャ	第4形 終止・伝聞 言い切り ～テエヤ ～ト（引用）	第5形 推量 ～ノオワ ～ノオジャ ～ナ（禁止）	第6形 連体 ～トキ，～ワ，～カ，～ンテ，～オ（意志）	第7形 已然 ～バ ～ドオモ	第8形 命令 言い切り	活用の種類	
カク（書く）	カ kak-	カ a	カ a	ツ T	キ i	ク u	ク u	コ o	ケ e	ケ e	1a	1A
ユウ（言う）	* i-	ヤ a	ヤ a	イッ T	イ，イイ i	ユ，ユウ u, uu	ユ，ユウ u, uu	ヨ o	イェ e	イェ e	1b	
ニョオ（うなる）	** nj-	ニョワ（ニョオ） owa, (oo)	ニョワ（ニョオ） owa, (oo)	ニョッ oT	ニョイ（ニェエ） oi, (ee)	ニョウ ニョオ ou, oo	ニョウ ニョオ ou, oo	ニョオ oo	ニョエ（ニェエ） oe, (ee)	ニョエ（ニェエ） oe, (ee)	1c	
イロオ（弄う）	イ ir-	ロオ（ロワ） oo, (owa)	ロオ（ロワ） oo, (owa)	ロッ oT	レエ（ロイ） ee, (oi)	ロオ，（ロウ） oo, (ou)	ロオ，（ロウ） oo, (ou)	ロオ oo	レエ（ロエ） ee, (oi)	レエ（ロエ） ee, (oe)	1d	1B
ハリョオ（争う）	ハ harj (hari-)	リョオ（リアワ） oo, (awa)	リョオ（リアワ） oo, (awa)	リャッ（リアッ） aT (aT)	リェエ（リアイ） ee, (ai)	リョオ，（リアウ，リオオ） oo, (au, oo)	リョオ，（リアウ，リオオ） oo, (au, oo)	リョオ，（リアオ，リオオ） oo, (ao, oo)	リェエ（リアエ） ee, (ae)	リェエ（リアエ） ee, (ae)	1e	
オキル（起きる）	オ ok	キ，キラ i, ira	キ i	キ i	キ i	キル iru	キ，キル i, iru	キロ iro	キレ ire	キロ iro	2	
ノセル（載せる）	ノ nos-	セ，セラ e, era	セ e	セ e	セ e	セル eru	セ，セル e, eru	セロ ero	セレ ere	セロ ero	3	
クル（来る）	k-	コ o	キ i	キ i	キ i	クル uru	ク，クル u, uru	クロ uro	クレ ure	コ，コオ o, oo	4	
スル（為る）	*** s-	セ，サ e, a	シ i	シ i	シ i	ス，スル u, uru	ス，スル u, ru	ソ o	セ e	セ e	5	
デキル（出来る）	デ dek-	キ，キラ i, ira	キ i	キ i	キ i	キル，ク，クル iru, u, uru	キ，キル，ク，クル i, iru, u, uru	キロ，クロ iro, uro	キレ クレ ire, uru		6	

はa，b二つの語形がそれぞれ分担しており，他の語はcの一形で果していると認められる場合には，活用形としては二つをたてるべきであるとするなら，八丈島方言の動詞の活用形としては少くとも8ないし9をたてるべきであり，形容詞は9，形容動詞は10をたてねばならない。動詞・形容詞・形容動詞に通じてたてるとすれば11をたてねばならぬ。ここでは動詞を中心として，8形をたてた。第1形のうちの「〜ラ」「〜タラ」（ともに過去・完了を表わし，前者は 1a…1e に，後者は2…6につく）に連る形は分解して，第1形の「〜バ」に連る形および第3形に所属させることができる。

2. 動詞活用の種類として，幾つ認めるべきであるか。一つの用法に対して，ある語が二つ以上の語形を持つことがある。この場合多くの人が一致して同じように二つ以上の語形を用いている場合と，個人としては一形を用いるけれども人によって，その用いる形が異るためにその方言としては二つ以上の語形を持っている場合とがある。上の表では1 b, 2, 3, 4, 5, 6などにおけるものは前者の場合であり，1c, 1d, 1e におけるものには後者の場合である傾向が強い。カッコをもって示したのはある一部の人が用いる形である。大部分の人の通常の言い方でもって活用の種類を考えるなら，1a—1c, 1d—1e を別の一類として計7種類をたてるべきであろう。6の「デキル」は可能の意の場合である。「出て来る」の場合の「デクル」は「クル(来る)」と全く同様に活用する。

3. 活用形式1の第2形は次のようになる。

(1) カッテ（書いて）のように「〜ッテ」になるもの。イク（行く），タツ（立つ），トル(取る)，イロオ（弄う）など。（カ行，タ行，ラ行の1a，および1b—1e）

(2) オヨンデ（泳いで）のように「〜ンデ」になるもの。ノム(飲む)，マルブ(死ぬ—人について)，シヌ（死ぬ）など。(ナ行，バ行，マ行の1a) ただし，O，M，Sで。K，N，Sではオヨッデ。

(3) デエテ（出して）のような形を取るもの。ダス(出す)，コロス(殺す)，ハナス（話す）など。(サ行の1a) 地域によって，

---

* イェは人によって，エの形があらわれる。

** ニョオ，ニョエなどは人によって，ニョウォ，ニョウェの形もあらわれる。

*** セ，サは人によって，シェ，シャの形があらわれる。

表2

活用語	接続する語 / 語幹	第1形	第2形	第3形			第4形		第5形	第6形		第7形	第8形
		仮定・完了			連用	中止	終止 言い切り	伝聞	推量	連体	(完了)	已然	命令 言い切り
		～バ，～ラ	～テ(モ)	～ゲナラ	～ナル	～ナッ キャ	～ト	～テエヤ	～ノオワ	～トキ，～カ，～コソダラ	～オ，～オン (反語)	～バ，～ドオモ	
アカキャ (赤い)	アカ akak-	カラ，カア ara, aa	ク u	カリ ari	ク u	ク u	キャ ja	カッ aT	カン aN	ケ e	カロ aro	カレ，カイ are, ai	○
ジョオブダラ (丈夫だ)	ジョオブ djoobu-	ダラ，ダア dara, daa	○	ダリ dari	ニ，ン ni, N	デ de	ダラ dara	ダッ daT	ダン daN	ドオ doo	ダロ daro	ダレ，ダイ dare, dai	○

[de:te] O. S, [deite] M, [deate] K. N

従って，イキイテエタラは「行きいたした」。

3. 「飽きる・足りる・借りる・感じる」などは2の活用形式。「マチル（待つ）」も同じ。

4. 第3形にはこのほかに，イタス（致す），モオス(申す)，ヤル(なさる）などの補助動詞や，ゲナラ（様子だ）などがつく。第4形が終止に用いられることは実際には少ない。多くは第6形にワのついた「カコワ」の形が用いられる。第6形はこのほか接続助詞ニ(のに)，文末助詞ジャ，助動詞オ(意志)，ゴン(勧誘)，オ(過去・完了)，ダラ（指定）などがつく。また疑問文(多くは疑問詞を伴っている場合の）の言い切りに用いられる。準体言として格助詞・係助詞に連る。(以上接続する語については後述する。)

表には掲げなかったが，カキャア，オキリャア，クリャア，シャアなどの形もある。「カケバ」などに対応する形である。

3 形容詞・形容動詞の活用

動詞に準じて，活用表を作れば次のようになる。(表2)

1. 第1形は接続助詞バ(仮定)，助動詞ラ(過去・完了）に連る。このうちカア，

ダアは，O，M特にMに多いが，ラに連る時にはあまりあらわれない。第3形のカリ，ダリはゲナラ（の様子だ）に連る以外にはほとんど現れない。

○ジョオブダリゲナラ。丈夫な様子だ。丈夫な気配だ。（この時はゲナラが多く，ゲダラの形は少ない）

第3形の～ナルに連る形は形容動詞では，多くジョオブン　ナロオカ（丈夫になったか）のようにンの形になっている。なお，この第3形に続く「アカク（ワ/モ）ナッキャ，ジョオブデ（ワ/モ）ナッキャ」におけるナッキャ（ない）は形容詞であり，助動詞ではない。活用も後述の助動詞ンナカ（ない）とは全く異って形容詞活用である。形容詞の第3形は次のようにトテエ（のに，くせに）にも連る。

○アカクトテエ　シブク　オジャロカ。赤いくせに渋いんですか。

第4形の言い切りの形に文末助詞がついていることがあるのはもちろんのこと。この形はこれだけで動詞のカコワ（書くよ）に対応すると思われる。通時論的にはたとえばダラは dearowa→darowa→daroa→dara と説明される。形・形動には一般に文末助詞ワがつかないことに注目したい。

○アカキャノオ（イ）。赤いね。　○アカキャヨオ（イ）。赤いよ。

○ジョオブダラノオ（イ）。丈夫ですね。

○ジョオブダライ。丈夫ですよ。（イには親しみ・やさしみがある）

～テエヤ（ということだ）に連る形はまた～テエジャ（というんだよ），～チガ（ということだった）にも連る。

○アカカッチガノオ。赤いということだったね。

第5形にはノオジャ，ノオガ，ノオテなどもつく。

○アカカンノオジャ。赤いだろうさ。　○アカカンノオガ。赤いでしょうね。

○アカカンノオテ，赤いだろうから。

第6形の体言に連る形はほかに接続助詞ガ，（ン）テ（から），ト，ニ（のに），助動詞ダラにも連り，また準体言として格助詞，係助詞，並立助詞にも連る。疑問文の言い切りにも用いられる（多く疑問詞を伴う場合の）。また文末助詞ジャ，ガなどを伴って言い切りになる。

○ウラ　アカケガ　コレワ　アオキャ。　あれは赤いがこれは青いよ。

○アカケンテ　ヤダラ。　赤いからいやだ。（この場合Kではアカケイテである。）

○アカケト　ヨク　オジャロオニ。　赤いとよかったんですのに。

○アカケダラ。赤いんだよ。　*○アカケガ　ヨッキャ。　赤いのがよい。

○アカケニ　シロケニ。　赤いのに白いのに。(並立を表わす場合)

*○アカケワ　ヤダラ。　赤いのはいやだ。

*○アカケト　オモオワ。　赤いことと思うよ。　○アカケジャ。　赤いのよ。

○キョオデエモ　ジョオブドオニ，アレモ　ジョオブダラ。　兄弟も丈夫だし，私も丈夫だ。　○アッデ　ジョオブドオ？　どうして丈夫なのか？

○ウノヒトモ　ジョオブドオガ。　あの人も丈夫ですね。

○ジョオブドオゴンダラ。　丈夫なようだよ。

○ジョオブドオテ　ウレシキャ。　丈夫だからうれしい。

最後の例の場合，ドオテ　O，ドウテ　M，ドアイテ　K，ドアンテ　N，ダアンテ　S，が一般的。ただしOで，ドオンテ，ダロンテも聞かれた。また，

○ジョオブドオト　オモーワ。　丈夫であることと思うよ。

の場合，ジョオブダラト　ヤラ。(丈夫だと言った)とは異る。つまり，「ジョオブドオ」は体言的に「丈夫な事」ととらえられているのである(226ペ参照)。以上は形容詞・形容動詞に共通な用法である。なお，形容動詞が体言に連る時に

○キョオデエノ　コ　兄弟の子。つまり，おい，めい。

○キョオデエドオ　コ　兄弟たる子ども。つまり，幼き兄弟。

のような意味の区別があることに注意したい。

形容詞はこのほかに接続助詞ドオモ(けれども)，バ(既定)にも連るが，

○アカケバ　ヨッキャ。　赤ければいいよ。　○アカケドオモ。　赤いけれども。

しかし，これらの形は盛んではない。このような場合は第7形によるのが普通である。ドオは通時論的には daro→dao→doo と説明される。

第6形のカロ，ダロの形は助動詞オ(過去・完了のラの活用形と認められる)や反語の言い方(～オシ)などに連る。

○アカカロオカ。　赤かったか。

○アダン　アカカロオシ。　どうして赤いものか。なんの赤かろうか。

この場合，アカカロウ　M，アカカロア　K，N，アカカラア　S　が普通。

第7形は接続助詞バ(既定)，ドオモ(けれども)に連る。

○アカカレバ　ヨカロオニ。　赤ければよかったのに。

---

* この方言で活用語の連体形が「ノ」を伴うことなく準体言として盛んに用いられていることに注目したい。動詞・助動詞みな同様である。

○アカカレドオモ　カタチワ　ワルキャ。　赤いけれども形は悪いよ。

アカカイはO, M特にMに多い。バに連る時にはほとんどあらわれない。

2.　このほか形容詞には

○アカカリャアテ　ダメダラ。　赤いからといってだめだよ。

のようにアカカリャア（アカカレバに対応する形）の言い方があるほか，

○ワア，アカソオ。　まあ赤いこと。

○イロワ　アカシ，カタチワ　ヨクテ，スキダラ。　色は赤いし，形はよくて，(わたくしは）すきだ。　○アキャアカノオ。　赤いかね。

○アカケレバ　ヨカロオモノオ。　赤ければよかったのに。

などが聞かれたが，後の二例は共通語的であると意識する人があった。

形容動詞にはこのほかに，

○ジョオブダリャアテ　アテニナリンナカ。丈夫であってもあてにならない。

○ワア　ジョオブ　ソオ。　まあお元気ですこと。

○トトオモ　ジョオブダシ，ンマモ　タッシャダラ。　父も丈夫だし，母も元気だよ。　○ジョオブダカナア。　丈夫かなあ。

などが聞かれた。後の一例は共通語的であると意識する人が多い。ジョオブダリャアはジョオブダレバに対応する形である。

3.　形容詞の活用の種類は一種類である。形容動詞の活用は名詞につくダラの活用と同じである。ただし，体言を修飾する形が助動詞の場合は極めて制限され，多くは格助詞ノによっている所に違いがある。なお，「平たい，塩辛い，すっぱい，けむたい」などに対応する語は「テエラダラ，ショッカラキャ，スッパキャ，ケムッタキャ」などであった。

4　助動詞の活用

助動詞の主なものについて，活用表を動詞に準じて作れば次のようになる。（表3）

1.　セル，サセル，レル，ラレルは動詞3の活用形式と全く同じである。レル，ラレルは可能の意を表す場合もあるが，その時には命令形はない。タキャ，ダラはそれぞれ形容詞，形容動詞活用と同じ。

2.　過去・完了を表すラ，タラは，それぞれ動詞活用1，形容詞・形容動詞活

表3

活用語	接続する語 ＼ つく形	第1形 仮定 ～バ	第2形 ～テ	第3形 ～ゲナラ	第3形 中止 ～ヤル ～ンナカ	第4形 終止 言い切り ～ト	第4形 伝聞 ～テエヤ	第5形 推量 ノオワ	第6形 連体 ～トキ, ～カ	第6形 反語 ～オシ, ～オ(完了)	第7形 已然 ～バ, ～ドオモ	第8形 命令 言い切り
セル(使役)	動詞 1,5 の第1形	セ，セラ	セ	セ	セ	セル	セル	セ，セル	セロ	セロ	セレ	セロ
サセル(使役)	動詞2,3,4,6の第1形	サセ，サセラ	サセ	サセ	サセ	サセル	サセル	サセ，サセル	サセロ	サセロ	サセレ	サセロ
レル(受身)	動詞活用 1,5の第1形	レ，レラ	レ	レ	レ	レル	レル	レ，レル	レロ	レロ	レレ	レロ
ラレル(受身)	動詞2,3,4,6活用の第1形	ラレ，ラレラ	ラレ	ラレ	ラレ	ラレル	ラレル	ラレ，ラレル	ラレロ	ラレロ	ラレレ	ラレロ
ラ(過去完了)	動1，形，形動活用の第1形	ラ，ア		リ		ラ	ッ	ン	〈オ〉		レ，(イ)	
タラ(過去完了)	動 2,3,4,5,6活用の第1形	タラ，タア		タリ		タラ	タッ	タン	トオ		タレ，(タイ)	
タキャ(希望)	動詞活用の第3形	タカラ，タカア	タク	タカリ	タク	タキャ	タカッ	タカン	タケ	タカロ	タカレ(タカイ)	
ダラ(指定)	第6形	ダラ，ダア		ダリ	デ	ダラ	ダッ	ダン	ドオ	ダロ	ダレ(ダイ)	
ンナカ（打消）	第3形	ンジャラ，ンジャア ンナカラ，ンナカア ンナラ，ンナア	(ンナク)	ンジャリ ンナカリ	ンナク	ンナカ	ンジャッ ンナカッ	ンジャン ンナカン ンナン	ンノオ	ンジャロ ンナカロ ンナロ	ンジャレ，(ンジャイ) ンナカレ，(ンナカイ) ンナレ，(ンナイ)	
ズ(打消)	第1形				ズ							
オ(意志)	第6形					オ			オ			
メエ(打消推量)	第5形					メエ			メエ			
ゴン(勧誘)	第6形				ゴン，ゴオニ	ゴン，ゴオニ			ゴン			

用の第1形と動詞活用2・3・4・5・6の第1形とにつく。第1形のうち，ア，タアはO，M特にMに多い。

○イカアバ　ヨカロオニ。　行ったらよかったのに。

なお，ラ，タラの第1形にさらにラが重なっていることがある。

○ミヤケジメエモ　イカララ。　三宅島にも行ったことがある。

○ミタララ。　見たことがある。

ただし，この場合にはア，タアの形はあまりあらわれない。このようにラが重なっている場合には経験を示すことが多いが，単に過去ないし完了の意を強調する際にも用いられる。

○ソコン　アララ。　そこにあったよ。(たしかにそこにあった。)

共通的な言い方として，イッタッタ(行ったことがある)，オキタッタ（起きたことがある）などもある。

第3形のイカリゲナラ(行った様子だ)，オキタリゲナラなどのリ，タリの形はほかにはあまり用いられない。

第4形のイカラ(行った)，オキタラ（起きた）に文末助詞ノオ，ヨオ，イ，などがついていることが多い。例略。ラ・タラにもワは一般につかない。イカラは通時論的には ikarowa→ikaroa→ikara と説明される。

伝聞を表す文末助詞テエヤに連る形には，ケ（回想）もつくが，この場合にはラの重なった形になっていることも多い。

○オヨメニイカッテエヤ。　お嫁に行ったそうだ。

○クニゲエ　イカッケノオ。　東京に行ったっけなあ。

○イカラッケノオ。　行ったっけなあ。

○オキタッテエヤ。　起きたそうだ。　○オキタッケノオ。　起きたっけなあ。

○ホメラレタラッケノオ。　ほめられたっけなあ。

第5形にはほかにノオジャ，ノオガ，ノオテ，ネエヤ(……すると)，などもつく。

○シッカリ　イカンノオワ。　たくさん行ったようだ。

○オキタンノオテ　タノミヤレ。　起きたろうからお頼みしなさい。

○アスビニ　イカンネエヤ　ダレモ　ナカララ。遊びに行った所が誰もいなかった

第6形にオ，トオをあげたが，オは実は第1形につくのではなくて，第6形につく。これは，たとえばイコオトキ（行った時）などは通時論的には，

ikaro→ikao→ikoo,　okitaro→okitao→okitoo

のように説明できる。その結果トオの接続には変化がないが，もしオを過去・完了の助動詞ラの活用形とすると，接続関係が他の活用形と違っていると認めねばならなくなっている。従って，イコオなどを動詞の一活用形と認めることも考えられるし，また，オを別種の過去・完了を表す辞と認めることも考えられる。ここでは第6形の中で説明するが，これは全く便宜的なことである。地域によって　イコウ・オキトウ　M，イコア・オキトア　K・N，イカア・オキタア　Sのようになっている。接続助詞ガ，テ(から)，ニ(のに)，助動詞ダラなどに連り，準体言としても用いられる。疑問文の言い切りにもなる（多く疑問詞を伴う場合の)。また文末助詞ジャ，カを伴って言い切りにもなる。

○ソゴンドオダラバ　ワイモ　イコオニ　クヤシキャノオ。　そんなら私も行ったのに残念だなあ。

○シッカリ　イコオテ　スワレンジャララ。　たくさん行ったから坐れなかった。

○ハヤ　イコオダラ。　もう行ったんだよ。

○ミヤケニモ　イコオニ，オオシメエモ　イカラ。三宅にも行ったし，大島にも行った。　○ウケエ　イコオワ　オミダンノオジャ。あそこに行ったのは君だろう

○ハヤ　イコオジャ。　もう行ったよ。　○ハヤ　イコオカ。　もう行ったか。

ハヤ　イコオト　オモオワ。
ハヤ　イカラト　オモオワ。

この両者において前者には「行ったことと思う」の意がある。(222ページ参照)

第7形のうち，イカイ，オキタイなどはO・M特にMに多いが，バに連る時にはあまりあらわれていない。なお，既定の意味を表すレバに対応してラ，タラのあらわれることがある。

○カカレドオモ　ダメダララ。　書いたけれどもだめだった。

○アスビン　イカラ　ダレモ　オジャリン　ジャララ。　遊びに行ったところが誰もいなかった。

ラ・タラにさらにラが重なっている時，その後部のラは活用形を完全にそなえている。イカララバ，イカラリゲ，イカラッテエヤ，イカランノオワ。イカロオトキ，イカラレドオモなど。

また「ている」に対応するテアル・テオジャルが，ネムッタロカ（眠ってい

るか）イットジャロワ（行っていらっしゃるよ）などの形をとっていることがあり，ドケエ　イットオ？（どこに行っているか）などのような形もある。

3.　打消を表すンナカの活用はかなり複雑である。表に見られるように三つの系列を認めることができる。その相互の間の意味上の違いは意識されていない。

第1形のンジャラ，ンジャア，ンナカラ，ンナカア，ンナラ，ンナアなどにおいて，ンジャア，ンナカア，ンナアはO・M特にMに多いが，ラに連る時にはあまりあらわれないようである。また，ンナカラ，ンナカア，ンナラ，ンナアは若い人に多いと言われる。

○イキンジャラバ　ヤドモリオ　タノモワ。　行かないなら留守番を頼むよ。

第2形の場合には，イキンナクテ　コマロオジャ（行かなくて困った）のような例があるが，一般にはイキンシャデ　コマロオジャが用いられる。

第3形イキンジャリなどはゲナラに連る以外はあまりあらわれない。イキンナクはイキンナク　ナル（行かなくなる）などがあるが，このような場合にはイカズンナルなどが普通である。ンナクは新しい言い方であると意識している人が多い。

第4形の言い切りはイキンナカ（行かない）のような言い方だけである。伝聞を表す文末助詞テエヤなどに連る形ンジャッ，ンナカッの例としては

○イキンジャッテエヤ。行かないということだ。　○イキンナカッテエヤ。同上。

○イキンジャッチガノオ。行かなかったというがねー。

ンナカッは若い人に多いといわれる。

第5形はイキンジャンノオワ（行かないだろうよ），イキンジャンノオテ（行かないだろうから）のように用いられる。ノオジャ，ノオガにも連る。ナン，ナカンは若い人にかなり用いられるが一般にはあまり使われない。ナンはMにやや多いと言われる。

第6形は文末助詞ワ，カ，ジャ，ガ，接続助詞テ，ニ，助動詞ダラ，ゴンなどに連る。体言に連るばかりでなく準体言としても用いられ，疑問文の言い切り（多く疑問詞を伴う場合の）にもなる。

○ドケエモ　イキンノオワ。　どこにも行かないよ。

○イキンノオカ。　行かないか。　○ワラ　イキンノオジャ。　私は行かないよ。

○ウノヒトモ　イキンノオガ。　あの人も行きませんよ。

○ソトン　イキンノオテ　ユワク　ナッキャ。外に行かないからお腹がすかないよ。
○イキンノオニ　アンデモ　ショッキャ。　行かないのに何でも知っている。
○イキンノオドオジャ。　行かないんだよ。
○イキンノオゴン　ナロワ。　行かないようになるよ。
○イキンノオゴンドオメダラ。　行かないようなやつだよ。
○イキンノオト　オモオワ。　行かないことと思うね。
○イキンノオ　ヒトワ　イキンノオナリニ　アニカ　アルノオワ。　行かない人は行かないなりに何かあるようだね。
○イキンノオガ　ワルカララ。　行かないのが悪かった。

なお，Mには，イキンノオベイカノオ（行かないでおこうかなあ）のようにべいに連る例があるが他の村では聞かれなかった。（「本州東部の方言」参照）

イキンナコトキ（行かない時）の形がNで聞かれたが，一般的ではないようである。

第6形のンジャロ，ンナカロ，ンナロは

○イキンジャロオテ　ヨカララ。　行かなかったからよかった。
○アダン　イキンジャロオシ。　どうして行かなかろうか。なんの行かないものかのように用いられている。ンナカロ，ンナロの形は多く若い人に使われると言われる。

第7形はイキンジャレバ　ヨカロオニ（行かなければよかったのに），ワライキンジャレドオモ（私は行きませんけれども）のように用いられる。ンジャイ，ンナカイ，ンナイなどはO・M特にMに多いと言われるが，バに連る時にはあまりあらわれない。なお，イキンナケバ，イキンナケドオモの形もまま聞かれるが一般的ではない。ンナカレ（ンナカイ），ンナレ（ンナイ）は多く若い人に用いられると言われる。

表には掲げなかったが，たとえば

○イキンジャリャアテエ　ソオグナ。　行かないからと言ってさわぐな。
○イキャアテ　イキンジャヤアテ　カメエンナカ。　行っても行かなくても構わない。

のようなイキンジャレバなどに対応する形が聞かれた。イキンナキャア（イキンナケバ）の形も聞かれた。

また，イキンネエ（行かない），オキンネエ（起きない）の形もあるが，共通語的であると意識されている。

第2形の打消の言い方の「行かなくて困った」に類する表現には

Aイキンナクテ　コマロオジャ。

Bイキンシャデ　コマロオジャ。

Cイキンノオテ　コマロオジャ。

Dイキンノオデ　コマロオジャ。

のような形がある。AとBとはほぼ同じ意味であるがAが共通語的であるようである。Cは「行かないから」の意に近く，Dは「行かないということでもって困った」のような意に近い。このうち，「ンシャデ」の用法はこのような場合に限られているようであるが盛んに用いられる。

なお，打消の表現には活用の第1形につくズをもって行われるものがある。

○ヤメエモ　イカズ，ハタケエモ　イカズニ　アスッデ　アロワ。山へも行かず畠にも行かずに遊んでいるよ。　○イカズトモ　ヨッキャ。　行かなくてもよい。

また，たとえば「行かねばならない」は次のように表現される

○イカズニャダラ。　○イカズニワダラ。　○イキンノオトダラ。

○イキンノオトドオガ。

それぞれ多少のニュアンスの違いがある。最後の例はややていねいな表現。

4.　意志・推量を表現する場合にはオ，ゴン，ノオなどがある。これらを助動詞と認めるかどうかには問題があろうが，その論議は他日に譲り今回は便宜的に取り扱う。

一般に意志を表すにはオを用いる。

○ハヤ　イコオジャ。もう行こうよ。○ハヤ　オキロオカノオ。もう起きようかな

○デカケロオカ。　でかけようか。

○ワイモ　ソオト　オモオワ。　私もしようと思うよ。

オは第6形につく。通時論的にはikamu→ikau→ikooと説明できる。オキロオなどはイコオなどからの類推によるものであろう。現在はオは第6形につくと考えるべきであろう。従って既に説明した過去・完了を表す同形のオと同じ問題を持つものであり，また形の上から紛れやすい。事実，イコオカ，イコオジャなどは「行こうか・行ったか」「行こうよ・行ったよ」の意味を持ちうる。区別は専ら文脈や場に頼っているようである。地域によって形に違いがあることは完了オの場合と同じ。もちろん活用2以下の場合にはオキトオジャ（起き

たよ)，オキロオジャ(起きようよ)のような違いがある。

推量を表すにはノオがある。イクノオワ(行くだろうよ)，イクノオテ（行くだろうから）のように用いられる。動詞・形容詞・形容動詞・助動詞などの第5形に広くついていることは既に述べ来った通りである。形の似ているものに打消を表す助動詞の一活用形ンノオがあるが，接続が異る。イクノオテ(推量)イキンノオテ（打消——行かないから)。

これらに対して，ゴンが意志・推量を表していると考えられる場合があるが

○モオミン　イコゴン。早く行こう。　○ヤメテオコゴンノオ。やめておこうね。
○ハヤ　ネロゴン。　もう寝よう。　○アカケゴンドオジャ。赤いようなんだよ。
○オキロゴンダラ。　起きるようだ。

ゴンには次のような言い方もあって

○コゴン　ナロワ。　このようになるよ。　○コゴ(オ)ニ　ナロワ。　同上。
○トンメテニ　オキロゴン　オモッテアロワ。　朝早く起きようと思っているよ。
○ハヤク　ネロゴン　ナロオジャ。　早く寝るようになったよ。

「様だ・様子だ」の意味がある。意志を表していると考えられる場合にも相手に相談するような意味があると意識されている。イコゴン（行こう）も相手に「行くようにしよう」と勧誘している意味があるようである。このようにオ，ノオ，ゴンは区別される。しかし実際にはジョオブダロオカ(丈夫でしょうか)のようにオが推量を表していることもある。もっともこの場合には共通語的であると意識している人が多い。ただし，反語の言い方のアダン　ジョオブダロオシ(どうして丈夫だろうか。なんの丈夫なものか)，アダン　イキンジャロオシ（どうして行かなかろうか）などのオはやはりこのオの例と考えるべきであろう。

なお，Mでは次のような言い方もある。

○イクベイカ　イキンノウベイカノウ。　行こうか行くまいかなあ。
○イキンノウベイ。　行かないでおこう。　○イコウベイカノウ。行こうかなあ。

しかし，他の部落では聞かれない。Mの老人の間にごく制限された用法で残っているに過ぎないようである。「さあ行こう」の場合にイクベイという言い方はないようである。他の動詞についても同様である。

5　表現上の特徴の若干について

1. いわゆる係り結びの現象が見られることは「八丈島の言語調査」で報告したが，

○タモオリヤレワ　ヨケコトバデカ　アレ。「タモオリヤレ」はよい言葉である。
○ソゴンデカ　オジャレ。　さようでございます。
○オメエヨ　タヨッテカ　キタレガ。　あなたを頼って来たんですよ。
○アスッデカアレ(ガ)，イタズラワ　シンナカ。　遊んではいるがいたずらはしない。

つまり，カに呼応して第7形で結ぶのであるが，この場合，次のようにコソを用いることもある。

○ワア　アスッデコソ　アレ。　私は遊んでいます。
○アスッデコソアレ(ガ)　イタズラワ　シンナカ。　遊んではいるがいたずらはしない。　○ブトンテコソ　ヤダレ。　なぐるからいやだよ。
○ヨクコソ　イキンジャラレ。　行かないでよかった。
○テンキガ　ヨカロオテコソ　ハヤ　アカカレ。　天気がいいからもう赤いよ。

これに対して「コソは東京ことばである」と言う人もいるが，「老人がコソを用いる」という人もいる。すべて，コソよりもカを用いている場合が現在では多いようである。

また，既述したように多く疑問詞を持つ疑問文の文末部が，体言に連る活用形であるということもやはり呼応の現象として注目すべきであろう。次のような例がある。

○マンカラ　ドケエ　イコドオ。今からどこに行くのだ？（cf. イコダラ。行くのだ）
○ドコデ　トッテキトオ。どこで取って来たのか？(cf. トッテキタラ。取って来た)
○アッデ　ワシンジャロオ。どうして来なかったのか？（cf. ワシンジャララ　来なかった）　○アダン　ソイ。どうしますか。(cf. ソワ。するよ)
○ドコン　アロ。　どこにあるのか。(cf. アロワ。あるよ)
○ダレン　カコオ。　誰に書いたのか。(cf. カカラ。書いた)
○アッデ　カキンノオ。　どうして書かないか。(cf. カキンナカ。書かない)
○イクジドオ。　何時だね。(cf. ゴジダラ。五時だ)

疑問詞を伴わない疑問文にも用いられていることがある。ヤメエ　イコドオ？(山に行くのか)，ウレエ　ノセトオ？(あれを載せたか)。この場合にはイントネエションは一般に著しく上昇調である。一般には疑問詞のない場合には文末助詞カがついていることが多い。(疑問詞のある場合にはカがついていないことが

多いわけである）

○ハヤ　イコオカ。　もう行ったかね。　○オジャロカ。　いらっしゃいますか。

以上のことは殊に相手に質問している場合にこの傾向が顕著である。もちろん，体言に連る形は多くの文末助詞にも連るのであるが，それ自身だけで文末に位置することは，ほとんどこのような場合に限られている。

2.　動詞にヒンムシル（むしり取る），ヒンノケル（除く），ヒンマゲル（曲げる），ツッピネル(ひねる)，ブッツォベエル(甘える)，ヒッチャゲル(下げる)，ヒットル（取る）のように接頭語のつくことが多いが，一方多くの敬意動詞があることが注目される。「ある・いる・行く・来る」にオジャル・ワス・ス，「見る」にゴ（ロ）オジル・マバル，「食べる・行く」にメエル・アガル，「下さる」にタモオル・タブ，「言う」にオシャル・オスナル，などがある。一般に，それぞれ後の語になるにつれて敬意の度がうすれる。

また一方補助動詞としてヤル(なさる)，イタス(ます)，モオス（申す）があるほか，前記の敬意動詞も補助動詞として「テ～」の言い方に用いられる。一般的に，尊敬には「～ヤル」を用い，謙譲の場合は「～モオス・～イタス」を用いる。タチヤロワ（立っていらっしゃるよ），タチヤレ（お立ちなさい），カキモオセロワ（書き申します），カキイタソワ（書きます）。ただしモオスは現在では老人，特に老女に用いられる程度である。

それ故「○○さんはお宅にいらっしゃいますか」「いらっしゃいませんよ」は次のようにあらわれる。

オジャリヤロカ	オジャリヤリンノオガ	目上
オジャロカ	オジャリンノオガ	目上
ワソカ	ワシンノオガ	対等
ソカ	シンナカ	対等
アロカ	ナッキャ	目下

もちろん，人によってワシヤロカ，シヤロカのように用いられないことはない。それぞれワソカ，ソカより敬意がある。また，オジャリヤリンナカ，ワシンナカなどのようにも用いられる。この場合，それぞれオジャリヤリンノオガ，ワシンノオガの方がよりていねいな言い方である。丁度「いらっしゃいません」と「いらっしゃいませんが」の関係に類する。ただし，八丈方言ではガは

文末助詞として熟している。普通には表示したような言い方が多く用いられる。「書いて下さい」はカッテタモオリヤレ，カッテタモオレ，カッテタベ，カッテケロの順にぞんざいになる。「オ……ヤル」のような言い方はあまり行われていない。

○オイデヤレ。　おいでなさい。　○オヨリヤロオカ。　お休みになりましたか。
○オヤスミヤロオカ。　同上

などが聞かれた程度。後の二つは朝の挨拶言葉である。

3.　主格を表すノがある。一般に主格がガ，ワ，モ，などによって表されることは共通語と同様であるが，次のようにノで表されることもある。

○ヒノクレロンテ　オジャッテ　オヨレ。　日が暮れるから行ってお休みなさい。
○ミズノフベンデ　ヤダラ。　水が不便でいやだよ。
○センセエノ　スキドオモノワ　ホンダラ。　先生の好きなものは本だよ。
○ヒトノガノ　ヘエッタロワ。　他人のものが入っているよ。
○バッキンノ　イコワ。　罰金が行くよ。　○アメノ　フララ。　雨が降ったよ。

ただし「水が飲みたい」の時は句中である場合に限ってノがあらわれるようである。また「これが本で，これがペンだ」のような対立句の場合もノはあらわれ難いようである。

なお，所有をあらわす時にワガハルコ(我が春子—愛人の名)，ウレガウシ(あいつの牛)，トクイチガマゴ(徳市の孫)，センセエガイェ(先生の家)，トトオガナワ（父のものは)，トモダチガガ（友達のが)，ワガダラ（私のだ）のようにガが用いられるが，人格的でないものの所属を表す，次のような場合には，トナリノガガイチバンヨッキャ(隣りのものが一番よい)。ガッコオノガガヨッキャ（学校のものがよい）のようにノガガという言い方もあらわれる。

4.　方向を表すにはシャン，シマ，ゲエがある。ヤマシャン　イク（山の方に行く)，スエヨシシャン　イク（末吉の方に行く)。これらは方向を表す故，必ずしも末吉に行かなくてもよい場合である。従って「大工になる」「空に星が出ている」などの場合には用いられない。シマはSで多く用いられる。用法は同じようである。ゲエはあまり用いられず最近の言葉だという人もあった。区別はよくわからないが，シャンよりはかなり「の所に」の意味が強そうである。

また「のために」を表すノガラ・ガラがある。　○オメエノガラ　シタラ（あ

なたのためにしたんです)，　○オメエガラ　トットコオワ（あなたのために取っておいたよ)。

5.　文末助詞にはワ，カ，ガ，ジャ，ノオ，ヨオ，テエヤ，ジイ，イ，ンなどがある。ワ，カ，ガ，ジャ，テエヤなどについては既にふれる所があったが，ワが嘆声的，独言的であるのに対して．ジャには押しつけがある。

○イクノオワ(行くだろうよ。行くように思われる)，　○イコワ（行くよ）に対して　○イクノオジャ(行くだろうさ。行くにきまっているさ)，　○イコジャ（行くのだよ）のようである。ノオは相手に同感を求める意味が強い。○ツヨカラツケノオ(強かったっけなあ)，　○ウノノオ　オジャレ　ノオ（あのね，いらっしゃいね)。ヨは相手に呼びかけるような意味がある。

○カシテタモオレ　ヨオ。　貸して下さい，どうぞ。
○マケルナ　ヨオイ。　負けるなよ。

このようにイがついていることがある。このイは動詞に直接つくほか，文末助詞ワ，カ，ガ，ジャ，などや助動詞ラ(オ)，タラ(トオ)，など多くの語につく。軽い親しみを表している場合が多い。○アダンソイ(どうしますか)，○イキンナカイ(行かないよ)。○アニョ　シトオイ。何をしていたかね。ナ(ア)はあまり用いられないが，このナについてナイもある。○コレワナイ(これはね)ゾ・ジイにおいてイクゾ（行くぞ）に対してイコオジイ（行きましたよ）にていねいさがあるのもこのイの効果が認められよう。ただし，ゾ・ジイの用いられ方は極めて制限されている。イクジイ，イコオゾなどとはあまり用いられない。イに対してンはぞんざいである。オメエガイカンノオジャン(あなたが行ったんでしょう)，イカララン（行ったよ)。相手をつき放した言い方である。それ故，この方言においては「行った」はイコオガ，イカライ，イカラ，イカランの順序で，ていねいさがうすれると考えることができる。ンはSに多く行われ，それもジャ，ダ，タ，ラなどにつくだけである。

○コレ　イクラブンダン。　これはいくらぶんか。
○アダンシテ　コセエタン。　どのようにしてこしらえたのか。

以上，紙数の関係もあって極めて大まかに述べたが，多くの問題を残している。今後にまちたい。